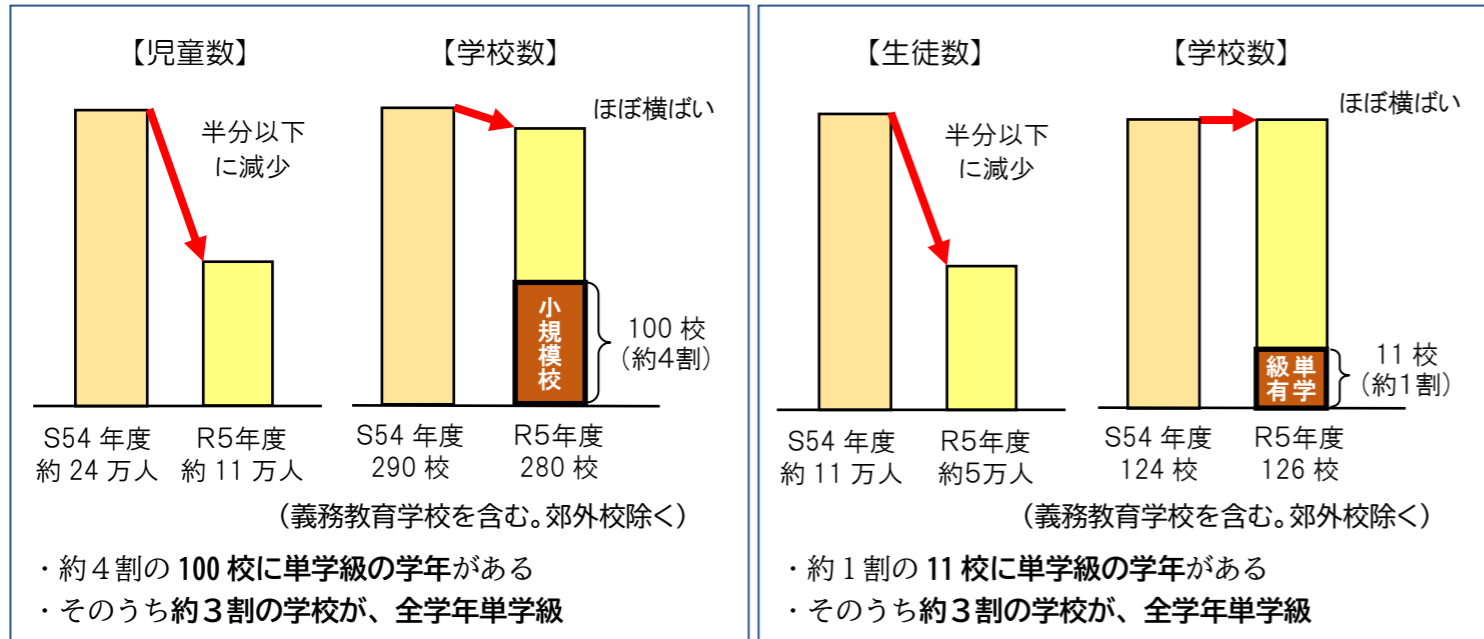


学校配置の適正化について ～子どもたちにより良い教育環境を～

1 大阪市の小中学校では小規模化が進行

小学校

中学校



➡ 地域等により差はあるものの、少子化の傾向は今後も大阪市を含め全国的に続く見通しであり、学校の小規模化への対策は、差し迫った課題

2 適正配置の必要性～小規模校における課題～

児童・生徒にとっては…

教員にとっては…

学校・学級運営では…

- ・クラス替えができないため、人間関係が狭くなり固定化しやすい。また、関係につまずいても、リセットや改善が難しい。
- ・様々な同級生と接して、友だちを作ったり、もめても仲直りしたりする力をつける経験が少ない。
- ・男女比がアンバランスになると、思春期の子どもが体の悩み等をクラスメートに相談できない。

- ・1学年1クラスの場合、未経験の教員でも、授業等の準備や保護者対応を1人で行わざるをえない。
- ・同学年の担任同士で相談して授業を充実する、隣のクラスの様子から学び取る等、現場でスキルアップする経験ができない。
- ・教員1人あたりの校務や行事にかかわる負担が重くなり、校内研修の時間の確保が難しい。

- ・体育の授業や音楽の発表が1学年で成立しない場合がある他、運動会でクラス対抗の競技ができないなど、教育活動に制約が出る。
- ・授業の中で、様々な意見が出にくく「こんな考え方があるのか」との気づきや意見の違いを話し合う展開になりにくい。
- ・修学旅行等や卒業アルバム等、保護者の経済的負担が大きくなる。

小規模校の現場では、教職員が知恵を出し合い、工夫をしているが…

「3クラス、せめて2クラスは欲しい」との声も

➡ ・一般的に小規模校は、学校としてまとまりやすい、児童生徒一人ひとりの生活実態が把握しやすいといった利点がある一方で、上記のような教育環境に関する課題が顕著

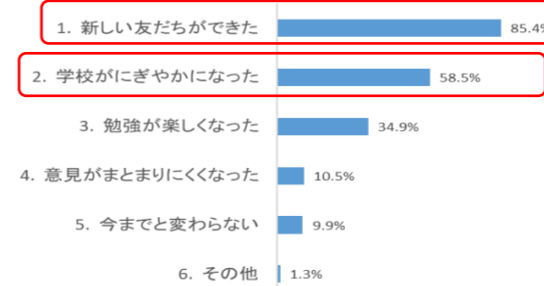
- ・一定の集団規模を確保し、教育活動の充実を図っていくことが必要
- ・統合・通学区域の変更により、学校配置の適正化を推進（現在は小学校を中心に推進）

3 統合により教育環境は良くなったか？

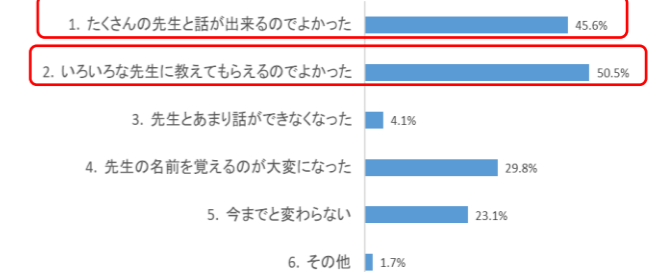
令和3・4年度 統合後アンケート結果より

■ 今の小学校についてどう思いますか（児童・複数回答）

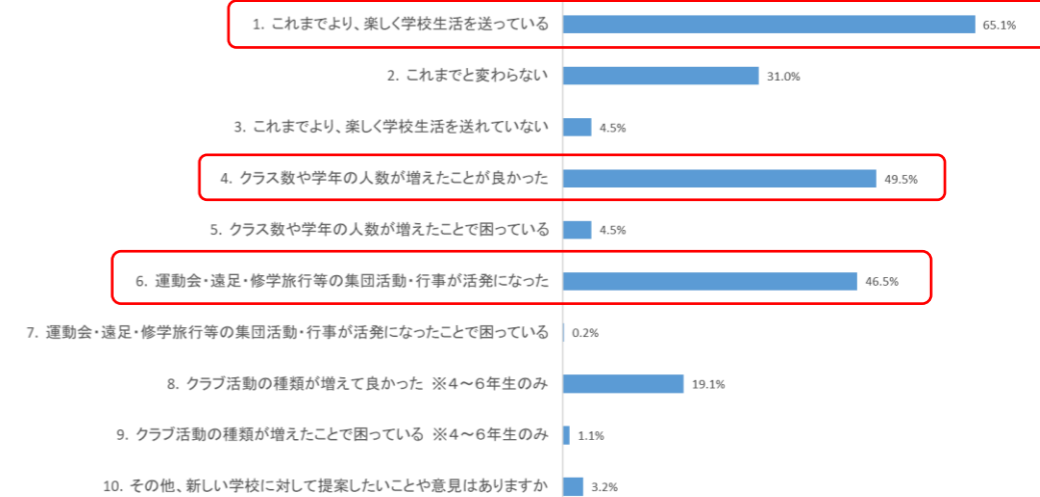
教室の様子について



先生の人数が増えたことについて



■ 統合してよかったことは何ですか（児童・複数回答）



■ 教員の声（聞き取り）

○ 児童、学級運営について

- ・交友関係が多様化し、特定の人間関係に依存しすぎることがなくなった
- ・学習や取組に対して、教え合いや競い合い、影響し合う機会が増えた

○ 教員について

- ・他の教員の指導を見る機会が増え、様々な指導方法を学ぶことができるようになった
- ・教材研究を分担することができ、児童への指導の幅が広がった
- ・校務分掌の負担が減り、児童に向き合う時間が増えた

等

➡ 上記のとおり、適正な規模が確保されたことにより、「児童の交友関係の広がり」「教育活動の充実」など、小規模であることに起因する課題が一定解消され、集団活動の中で期待される教育効果が得られている。

また、教員数が一定数確保されたことにより、指導技術の向上や教材研究、児童と向き合う時間の確保なども可能となり、教育の質的な向上にもつながっている様子が伺える。

参考（根拠法令等）

- ・大阪市立学校活性化条例
- ・大阪市立小学校の適正規模の確保に関する規則
- ・大阪市立小学校 学校配置の適正化の推進のための指針